

目 次

1 開会の挨拶	3
成田 友代 東京都保健医療局技監	
2 献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式	4
東京都知事感謝状贈呈式	
3 献血セミナー	5
～献血の現状と課題～	
鹿野 千治 東京都赤十字血液センター	
4 基調講演	14
血漿分画製剤の使用状況と課題	
～原料血漿確保と国内自給について～	
座長 安藤 純 順天堂大学医学部 細胞療法・輸血学	
演者 牧野 茂義 東京都赤十字血液センター	
5 輸血療法Q&A	38
座長 田中 朝志 東京医科大学八王子医療センター 輸血部	
水村 真也 虎の門病院 輸血部	
(1) 血小板製剤の細菌スクリーニング導入について	38
演者 石丸 健 日本赤十字社 血液事業本部	
(2) 赤血球型検査ガイドライン改訂のポイント	51
演者 森山 昌彦 東京都立墨東病院 検査科	
6 輸血療法シンポジウム	64
テーマ：血漿分画製剤の使用実態	
座長 奥山 美樹 東京都立駒込病院 輸血・細胞治療科	
藤田 浩 東京都立墨東病院 輸血科	
オーバービュー	64
藤田 浩 東京都立墨東病院 輸血科	
(1) FFP、アルブミン製剤等血漿分画製剤の適正使用	67
佐藤 智彦 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血・細胞治療部	
(2) 膠原病内科での血漿分画製剤の使用状況	82
草生 真規雄 順天堂大学医学部 膠原病内科学	
(3) CIDPでの免疫グロブリン療法	98
清水 優子 東京女子医科大学 脳神経内科	
7 閉会の挨拶	111
藤田 浩 東京都輸血療法研究会世話人代表	

1

開会の挨拶

東京都保健医療局技監
成 田 友 代

東京都保健医療局技監の成田でございます。

本日は、御来賓の皆様をはじめ、御来場の皆様におかれましては、御多忙のところ「令和五年度献血功労者厚生労働大臣表彰状伝達式及び東京都知事感謝状贈呈式」に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

開催に当たりまして、御挨拶申し上げます。

本年度は、厚生労働大臣表彰状を一団体、また、東京都知事感謝状を一名の方と七団体の方々が受賞されました。受賞された皆様には心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

本日表彰をお受けになられました皆様方には、職場や地域で、長年にわたり献血活動に御協力いただき、東京都の血液事業は、こうした方々の尊い善意に支えられて成り立っていることはいままでもございません。

ここに改めて東京都を代表して、受賞されました皆様のこれまでの御功績に対し、深く敬意を表しますとともに、日頃から献血に御協力いただいている方々、関係者の皆様の御尽力に心から感謝を申し上げます。

さて、輸血医療に欠かすことができない献血でございますが、昨年度、都内では、延べ五十七万人の方々に御協力を頂き、その供給量は、全国の一割以上を占めているところでございます。

都内には、高度先進医療を担う病院が多く、また、少子高齢化社会の進展も踏まえると、将来の献血を支える若い世代の御理解と積極的な献血への御参加が強く求められております。

そのため、東京都では、厚生労働省や日本赤十字社、各関係機関の皆様と連携し、若年層を中心に広く都民に献血への御理解と御協力を呼びかけるなど、普及啓発活動に努めております。

今後とも、東京都の血液事業への一層の御理解を賜り、引き続き、献血の推進に積極的な御協力をお願い申し上げます。

結びに、本日表彰をお受けになられる皆様に重ねてお祝いと感謝を申し上げますとともに、御列席の皆様様の御健勝とさらなる御活躍をお祈り申し上げまして、私からの御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

2

献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式 東京都知事感謝状贈呈式

厚生労働大臣表彰状受賞者（1団体）

（敬称略）

大成建設株式会社

東京都知事感謝状受賞者（1個人、7団体）

（敬称略）

鈴木 障子

株式会社トピーレック

公益社団法人麻布法人会

日本たばこ産業株式会社 生産技術センター

N T T労働組合持株グループ本部

コムウェア東日本分会

住友金属鉱山株式会社

北区赤十字奉仕団 赤羽西分団

北区赤十字奉仕団 昭和町地区分団

3

献血セミナー

献血の現状と課題

東京都赤十字血液センター

鹿野 千治

【スライド 1】

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました、東京都赤十字血液センターの鹿野と申します。まず初めに、このような貴重なお時間をいただきまして、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。私からは「献血の現状と課題」について、ご説明をさせていただきますと思います。

献血の現状と課題

東京都赤十字血液センター
鹿野 千治

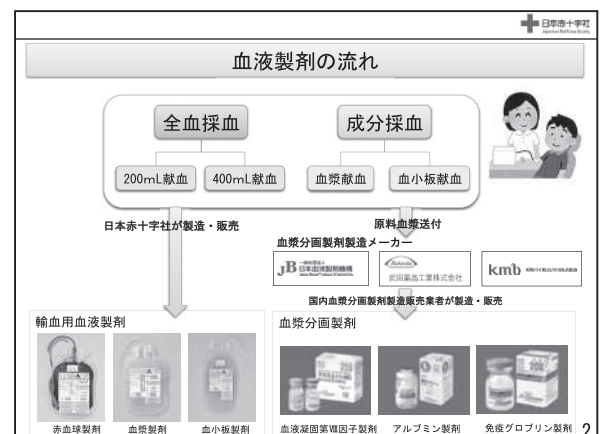


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和5年11月27日(月)
第22回 東京都輸血療法研究会

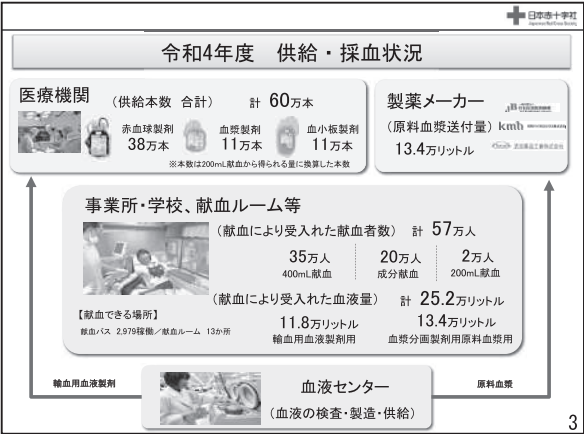
【スライド 2】

皆さんご承知のとおり、血液製剤の流れですけれども、左側の上段にございまして、全血採血については200ミリリットル献血または400ミリリットル献血、右側の成分献血については、血漿献血、血小板献血。左下段にあるとおり、輸血用血液製剤につきましては日本赤十字社が製造・販売をしているという状況でして、右側の原料血漿につきましては血漿分画製剤メーカー3社が製造・販売をしているといった状況でございます。



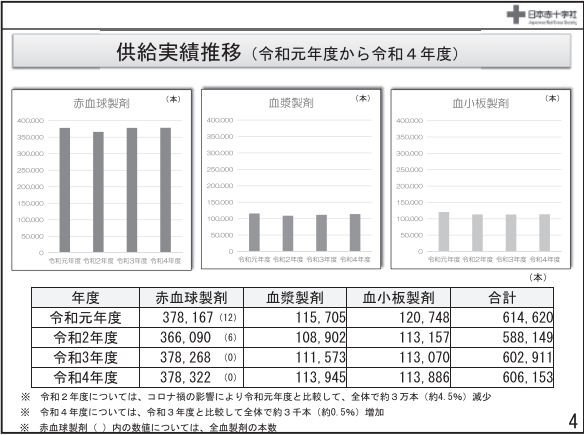
【スライド3】

昨年度の東京都赤十字血液センターでの医療機関への供給量ですけれども、供給本数としては60万本、赤血球製剤で38万本、血漿製剤で11万本、血小板製剤で11万本という状況でございます。また、事業所・学校、献血ルーム等により献血により受け入れられた献血者については約57万人の状況でございます。献血により受け入れた血液量につきましては25.2万リットル、輸血用血液製剤で約11.8万リットル、血漿分画製剤で13.4万リットルの状況でございます。



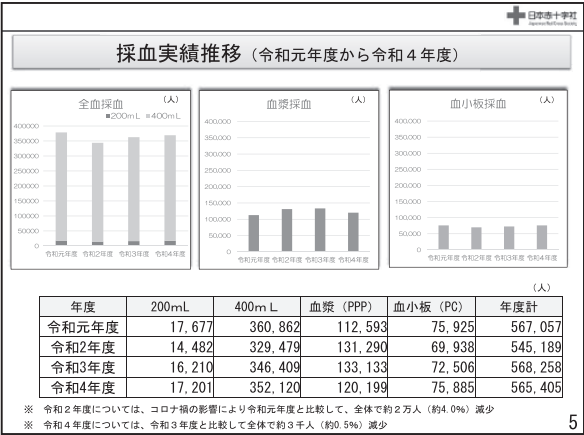
【スライド4】

こちらが供給実績の令和元年度から4年度までの約4年間をお示ししたものですけれども、右側の合計欄をご覧くださいと思いますが、令和2年度につきましては58万8,149本で、令和元年度と比較しましても、コロナ禍の影響によりまして約3万本ほど減少している状況でございます。また、令和4年度、昨年度につきましては、前年度と比較しまして3,000本増え、ほぼ100%というような状況で推移している状況でございます。



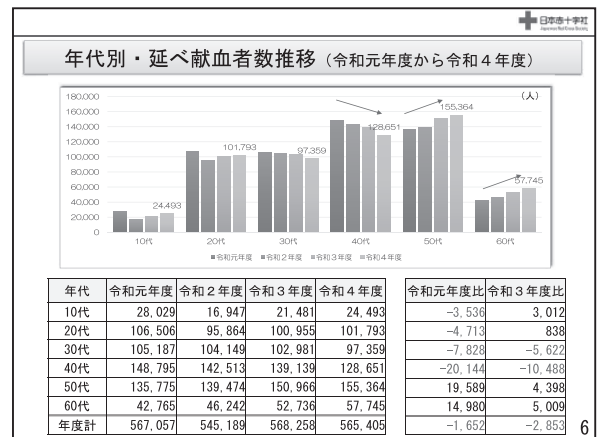
【スライド5】

次の採血実績になります。こちらと同様で、右側下段の合計欄をご覧くださいと思うのですが、令和2年度につきましては供給と同様、コロナ禍の影響によりまして、令和元年度と比較しても約2万人の方々が減少している状況です。昨年度の令和4年度につきましては、令和3年度と比較して3,000人ほど減少しており、ほぼ100%に近い協力をいただいた状況でございます。



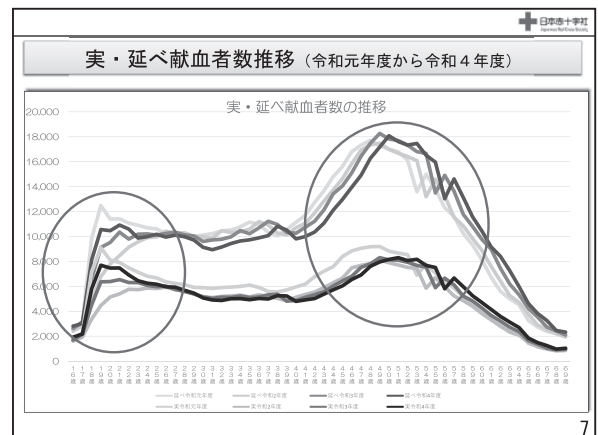
【スライド6】

こちらが年代別の延べ献血者数の推移でございます。右側の令和元年度と令和4年度と比較しますと、ご覧のとおり、10代から40代まで減少しており、かなり40代の減少が大きく目立っている状況です。一方で50代、60代につきましては増加傾向にあるという状況でございます。さらに昨年、一昨年度の令和3年度と比較しますと、10代、20代は増加傾向にあり、30代、40代は減少と、特に40代の減少が大きく目立っている状況でございます。



【スライド7】

こちらが、上段の折れ線グラフは延べ献血者数、下段が実献血者数の折れ線グラフと各世代別の状況でございます。円で囲っておりますけれども、左側の16歳から25歳ぐらいまでの年代層については年々減少傾向にある状況で、右側の40代後半から50代、60代にかけては増加傾向にある状況でございます。下段の実献血者数の折れ線グラフ

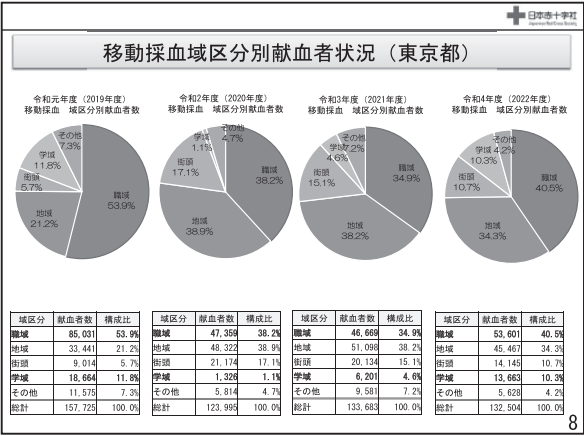


から延べ献血者数の折れ線グラフは、かなり40代から50代は高い状況ではございますが、こちらは1人当たりの献血回数がほぼ2回以上ご協力をいただいている状況でございます。

【スライド8】

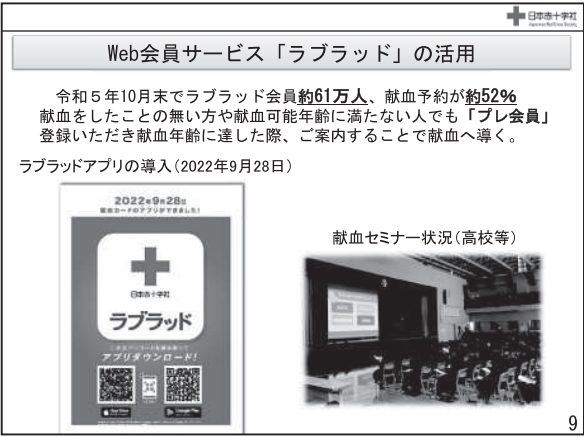
次に移動採血の域区分別の献血者の状況でございます。左側がコロナ前の令和元年度の状況になります。円グラフでお示ししているとおり、職域については全体の53.9%のご協力をいただいている状況でございますけれども、コロナ禍であります令和2年度、3年度につきましてはほぼ38%、34.9%と、かなり減少している状況でございます。いわゆる企業献血が減少しているといった状況が、これで見て取れるかと思えます。

昨年度の令和4年度、一番右側ですけれども、40.5%で、ある程度回復してきておりますが、コロナ前にはまだ戻っていないのが現状でございます。また、学域献血の状況ですが、左側の令和元年度については全体の11.8%のご協力をいただいております、令和2年度、3年度はほぼ1.1%、4.6%と、協力が少ない状況でございました。いわゆる学校献血が実施できていない状況が進んでいたという状況です。昨年度の令和4年度につきましては、現在10.3%という状況でして、今年度についてもそれ以上の献血にご協力をいただいている状況でございます。



【スライド9】

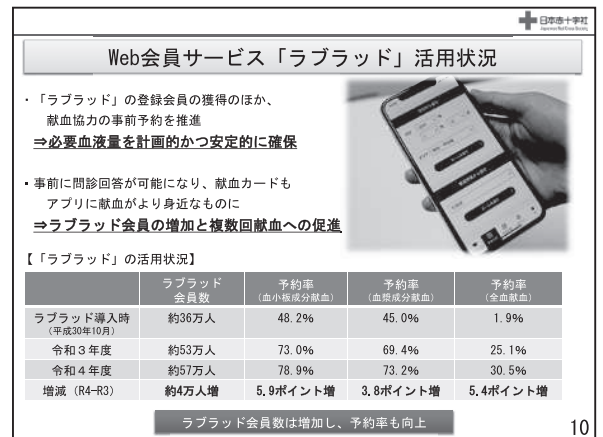
このような状況を踏まえまして、献血Web会員サービス「ラブラッド」というものを活用しまして、ウェブ上で献血にご協力をいただき進めている状況でございます。今年度、10月末のラブラッドの会員数は約61万人、献血の事前予約をさせていただき、献血にご協力いただいている方々が約52%の状況でございます。また、この機能にはプレ会員という登録制度を用いまして、献血年齢に達していない方々にも登録をいただいて、献血の年齢に達した際に献血へ導くということも進めている状況でございます。いろいろな献血セミナーを通して、ご協力、ご登録をいただいております。



【スライド10】

こちらがラブラッドの活用状況ですけれども、左側の表をご覧くださいと思います。ラブラッド導入時、平成30年度の10月に導入しましたが、会員数は約36万人の状況でございましたけれども、昨年度、令和4年度については57万人の状況で、約20万人が増加している状況でございます。予約についてもご覧のとおり、事前に予約をいただきながら献血をしていただいている状況でございます。

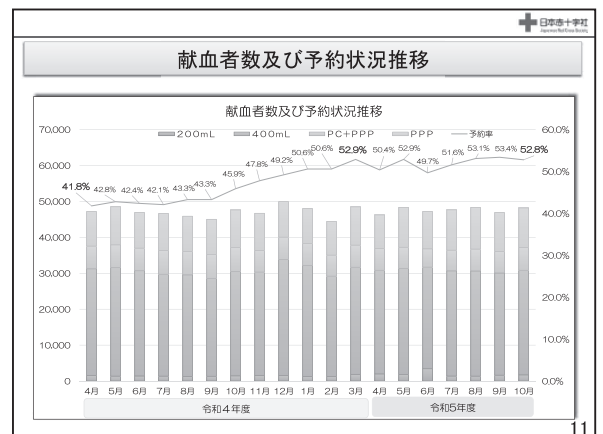
この利便性としましては2つございます。まず1つ目は、必要血液量を計画的かつ安定的に確保していくということで、事前予約を推奨しながら進めている状況でございます。2つ目は、ラブラッド会員の増加と複数回献血者の促進を図っていくことで、年々実献血者数が減少していく中、複数回献血に導くことを促進している状況でございます。また、事前問診を献血会場で実施しなくても事前に問診をしていただいで献血会場に来ていただく機能もございます。



10

【スライド11】

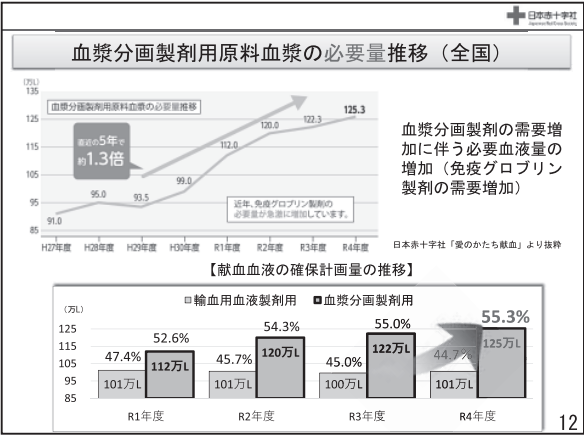
こちらの、棒グラフですけれども、令和4年度から令和5年度の10月までを表としたものになります。一番右側の10月ですけれども、先ほどご説明させていただいたとおり、52.8%の予約をしていただいで献血にご協力いただいていることで、左側の令和4年度の4月、41.8%から10%ほどの増加をしている状況でございます。



11

【スライド 12】

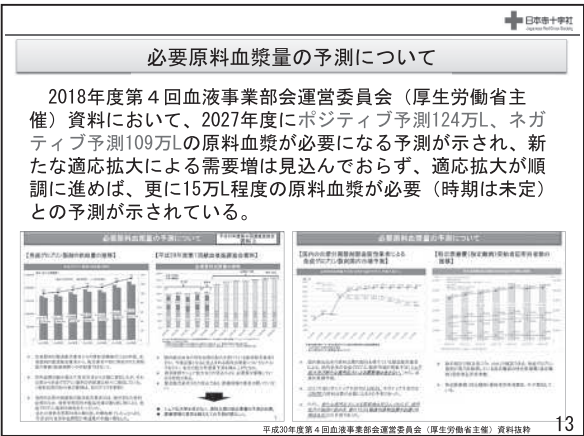
一方で血漿分画製剤の原料血漿の必要量が年々増加している状況もございます。昨年度については、全国で125.3万リットルの必要量で、国から示されました。近年5年間で1.3倍の増加をしている状況でございます。また右下段の令和4年度につきましましては、輸血血液製剤が約101万リットル、原料の血漿成分製剤については125万リットルで、輸血用の血液製剤を上回る必要量になっている状況でございます。



12

【スライド 13】

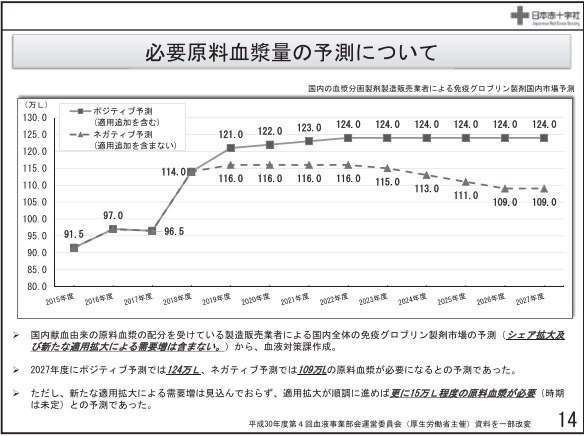
こちらが原料血漿の必要量を予測したものとなりますが、2018年度の第4回血液事業部会運営委員会、こちらは厚生労働省が主催で実施をしている会でございますけれども、こちらで2027年度にはポジティブ予測で124万リットルが必要になるという予測が示されています。



13

【スライド 14】

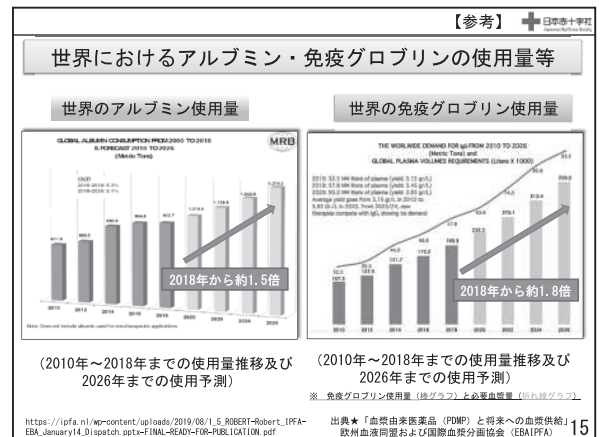
こちらが折れ線グラフですがけれども、上段の実線の折れ線グラフがポジティブ予測の必要量で、国から示されております。ほぼ国の予測が現在の必要量と合っている状況でございます。



14

【スライド 15】

こちらは参考ですけれども、世界的にもアルブミン製剤・免疫グロブリン製剤の使用量が増加していることが示されておりまして、2018年度から2026年度までの、世界の必要量を予測しており、増加傾向にあるという資料が示されています。



【スライド 16】

こういった状況を踏まえまして、血漿分画製剤の専用献血ルーム、東京八重洲献血ルームが本年5月1日に設置をされました。開設のコンセプトとしましては、血漿分画製剤の社会的認知と、その製剤に必要な血漿献血の重要性・必要性を理解していただくことです。また、これまでの献血にご協力いただくための献血ルームから、献血される方が自由に使える時間と空間という、献血者の視点で利便性・快適性を追求する献血ルームを設置させていただいてございます。

血漿成分採血専用 献血ルーム

東京八重洲献血ルーム

○ 概要

開所時期 : 令和5年5月1日

場 所 : 東京都中央区八重洲2-1-1 YANMAR TOKYO 3F

面積概算 : 586.9㎡

ベッド数 : 12ベッド

○ 開設コンセプト

血漿分画製剤の社会的認知と、その製造に必要な血漿献血の重要性・必要性を理解していただく。これまでの「献血に協力していただくための献血ルーム」から、「献血される方が自由に使える時間と空間」という、献血者の視点で利便性・快適性を追求する。

【スライド 17】

こちらが受付とコワーキングスペースの設置状況でございます。コワーキングスペースについては、ご自由に使用していただくことができます。東京駅と直結しているYANMARビルの3階ですので、見晴らしがよく、快適にいただいている状況でございます。



【スライド 18】

また、上段の採血室についてもベッドの間隔を通常の設置から大きく間隔を空けまして設置をしています。また下段は血漿分画製剤を展示しまして、このような製剤が使われることをお示しして、皆さんに献血への理解をいただいている状況でございます。



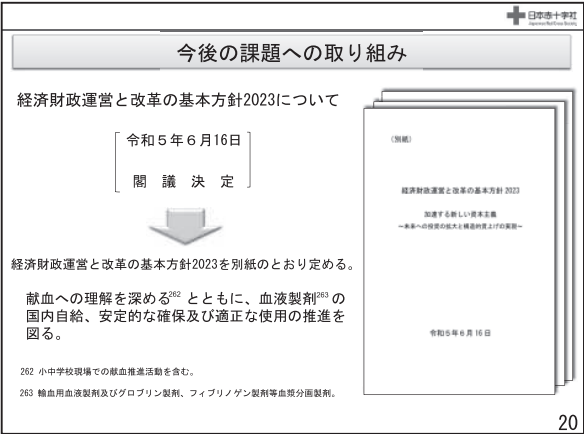
【スライド 19】

こちらの献血ルームは5月の9日に開所式をいたしまして、東京都知事もごあいさつに参列いただきまして、盛大に進めさせていただきました。



【スライド 20】

今後の課題への取り組みとしましては、本年6月16日に閣議決定がされました経済財政運営と改革の基本方針2023が示されてございますが、その中でも献血への理解を深めるとともに、血液製剤の国内自給または安定的な確保および適正な使用の推進を図ることが示されています。



【スライド 21】

このような状況を踏まえまして、今後、1つ目としましては、関係者との連携強化、行政、医療機関、献血協力団体を始めとする関係者との相互理解を深めるとともに事業を進めていきたいと考えています。

また2つ目としましては、新しい生活様式に適応した献血血液の確保体制の確立で、必要血液量の安定確保および血液製剤の安

定供給、安全で快適に献血ができる環境の整備、企業等への献血協力依頼におけるアプローチ方法の見直し、しっかりCSR活動への働き掛け等を図っていききたいと考えています。

最後の3つ目ですが、将来の献血基盤の構築ということで、やはり若年層献血者の確保協力を強化しなくてはならないと考えています。小・中・高等学校を含め、献血セミナーの強化、または先ほどからご説明させていただいています、献血ウェブ会員サービス、ラブラッドへの登録促進、さらにはラブラッドを活用した献血予約の推進を図って進めていきたいと考えています。

先ほど受賞された企業の皆さま方、大変ご協力、ご尽力いただきましてありがとうございます。今後ともよろしくお願ひしたいと思います。新しい生活様式を踏まえ、献血血液の安定確保に向けてまい進していききたいと考えています。

+ 日本赤十字社

今後の課題への取り組み

○ 関係者との連携強化

- ・行政、医療機関、献血協力団体を始めとする関係者との相互理解を深め、事業を進める。

○ 新しい生活様式に適応した献血血液確保体制の確立

- ・必要血液量の安定確保及び血液製剤の安定供給
- ・安全で快適に献血ができる環境の整備
- ・企業等への献血協力依頼におけるアプローチ方法の見直し（CSR活動への働きかけ等）

○ 将来の献血基盤の構築

- ・若年層献血者の協力強化
- ・小・中・高等学校等での献血セミナーの増加
- ・献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を促進
- ・「ラブラッド」を活用した献血予約の推進

21

【スライド 22】

これで私のご説明は終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

+ 日本赤十字社

ご清聴ありがとうございました。



ラブラッド



22